



和歌七部之抄

緒言百首全

伊地知文庫
文庫20
292
6



伊予の
人
の
名

卯瀬河古河野道に二む有教奉るとるく、
小町の人二平の御代に、
年毎もあわれ人とあつと、
首成申物とて、
うわりのとて、
乃らくあつと、
首らう、
庭う、
乃秋と、
秋れと

と備し初瀬之先、
里庭と、

もまのつ、
か、
舟の

羅中因寫

初瀬と、
後撰よ、

つひも、
の備身、
の備身、
幸山、
更く

法

長業此世にこれぞとてその所は言も消るる
一神命のくく人けの海宮勢之おれ字
乞座のくくくく余情やいよれさ
あ

山路梅記

色と香とあつては柳梅記白くまの明ほの
わがし
○梅記白くまの山屋の柳れとさうく
有けのれ歌とさわう海にたぐくぬさういそ
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
色と香とあつては梅記白くまの明ほの

を越へたんてみえ色くもまもも知人そと
け歌とさうくくくくくくくくくくくく
つくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
れあふ縁く

梅董杖枕

白くまの梅とさうく梅とさうくくくく
梅とさうく
早梅とさうく梅とさうくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

梅とさうく
梅とさうく
梅とさうく

かゝりやみ親れつらみしうらけは物なほし時の日は
あそかりやうらみとらふらうはくし進たあやわ
軍市書畫霞とらふあましくお款とく懐く之去
れぬ際つらさわのくやうみ打たふら流るるそ
くふらうとそ事の目もくうら花も咲くと作らう
んまぶくくちふく高云〇四方山よこれりま
ぬゆりぬきとくそつ流そくや花のあはれん

脚花笛人

玉ころりほせともし咲花のうらとくあまし響道は花人
まゆみはらう
ひらたぬらう
あはれとく素世は江師く〇い流るるう花道よんれわくかえん

あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくみゆはひきとあうぬんよゆとせとんらくせや花
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくれ流よかくとんまのぬと素世に二方の上と云
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく海と百人は流るされらう趣向あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく乃削あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくの粉
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく骨あつし趣あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくのあも侍く玉ころりとい
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく命れらうぬん之花の都く人乃命れあまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく極とか
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくりくく花とそのがまといとれんま又命れらう
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくうら流事くくく花とそあく花乃流るはくちとせと
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとく屋乃人のくくみ云をれらうらま又とく花う
あまのつらさ
うらみとらふ
あはれとくあつてくくくくくあり

遠ら山花

その時三す
名は三す
長し時鳥五
考す遠物
可

夕の^み淋^み一^み貴^み室^みれ^み志^みれ^み一^み中^みの^み鳥^み
つとめはかす^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

池郡高蒲

まよ
け
まよ
まよ

池の^み水^みよ^みの^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み
六月の^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み
ら^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

閑居牧火

竹^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

閑居^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み
物^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

盧橋鷺鳥亭

神^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

結^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み一^み鳥^み考^み行^み

世

日新の... 教... 吾... 斬... 光...
吾... 光... 吾... 斬... 光...

唯... 唯... 唯... 唯...
唯... 唯... 唯... 唯...

行路の

夕... 夕... 夕... 夕...
夕... 夕... 夕... 夕...

絶妙

初秋朔風

初秋朔風... 初秋朔風... 初秋朔風...
初秋朔風... 初秋朔風... 初秋朔風...

...

...

君臣の徳行の脚跡を成しおるを思ふ
まはゆ人のつとまら秋しくまふまをいん
をりしあゝ麻さうううう

田家持衣

病病れねその首吹風のともをたかた衣打
○別家れあてその首ううまううま世中と
あけおおびりいとねいんく思待う
又時さううそ首吹風とさむくあつと
りりて衣と打てとつと風うを
せら秋風吹うてあうううう

古橋秋暮

夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや

秋風満野

夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや
夕暮よ〜い橋の角の川 秋風丹のありわりや

結句

今白く申すに城十月一日此れありてありて
朝の朝のひよのけけりてありてありて

霜理落葉

朝霧の巻の捲きおとるも道とものつちの若人の心と

法花經如是報れりや人の心は因果これ

道ありてとありてありてありて

屋上圓窓 尾の白くその白くその白く

ゆきれは雪の敷けきと捲く風の山馬の麻ひきき

城に京氣は思はるるもあはれきききききき

城に京氣は思はるるもあはれきききききき

古寺初言

いやは何の巻の布きききききききききき

龍門寺と誇り作り作り作り作り作り作り

ら方おのりて作り作り作り作り作り作り

也てきききききききききききききききき

寺の修繕し人か鳥海雲出地是龍門寺

水登り苦寒と作り作り作り作り作り作り

多岐ゆりゆりてありてありてありてありて

乃く美とて一々文字のひのまらり思ひの
切ありんく又神意のなれ村翁く一枯く
秋の夜合くくをさるるさう一桂中又去る
のの丸ゆり思過乃私さうさうのあは思あ
美みの里人よき人と世思あつて
さう有る一具時名の中一ひん
あり

因都思恋

秋の霜の物と花の名りりし
秋の霜の物と花の名りりし
秋の霜の物と花の名りりし

結句秋の霜の物と花の名りりし
結句秋の霜の物と花の名りりし
結句秋の霜の物と花の名りりし

忠親思恋

先づ思ふとて一々文字のひのまらり思ひの
切ありんく又神意のなれ村翁く一枯く
秋の夜合くくをさるるさう一桂中又去る
のの丸ゆり思過乃私さうさうのあは思あ
美みの里人よき人と世思あつて
さう有る一具時名の中一ひん
あり

あはれ侍よまろくはくさくあひまては
文切さあしうん歌ようくあり

契絶年表

秋をそめゆりくく秋貴後ひあま色す
秋けくひりまかくあくまにげ歌と
とて修よ女は産てけりけふくおつて
ふひくくけくあまく貴後去却とゆり
とて年へくあくくくひ侍り

類真偽色

非海とくは偽のいりあん女はすれあまの
偽とく物くくます非城とく我を頼ん
わく多歌とまきり下白非城とくあれうんと

つらまえ偽れとくぬ右くくくく今れ
又まらまの心すくくあまのあま
路の妻とくあひそ偽のさく世あつて
いらくあまのくく偽くあまのま
あまのあまのくくあま

五字中 情色

片麻く煙くくくく海くくく新かま

○今とてとらん燈とじとほも道終ぬた
しひるもやあらん柳木た馬の終女とありえ
ん燈はあもやあんと燈くぬくやとほ
とてまの宮○まもひく酒やとあし
事とわりのうく燈くしよけんあく積
只新くあま又ぬくまもあし是も
よなれとく

被験賦意

笑は物くしひるもつを橋の明かしくあま乃被と
百葉よ○是門の心橋とあつとく

君と酒くしひるとあま新之今葉け明た
らん如の被の今とあま被れ袍とあつと物とあ
乃心と侍とや今物却とあつと清れあ
あまゆとくしよとあま○おれあまゆとあ
とあまゆとくしよとあまゆとあまゆとあ
乃厚れあまゆとくしよとあまゆとあ
あまゆとくしよとあまゆとあ

途中賦意

道の邊れ井よのり常れしひるも道とあ
と常の物あれをまらんと初まをあ

人まらうらうら

おのれを
おのれに
おのれに
おのれに

後門陽

可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ

ひあ

志行可也

おのれを
おのれに
おのれに
おのれに
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ
ひあ
志行可也
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ

依念祈身

おのれを
おのれに
おのれに
おのれに
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ
ひあ
志行可也
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ

隔遠路恋

おのれを
おのれに
おのれに
おのれに
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ
ひあ
志行可也
可いふ建津の門はぬらぬらとてふるは家れはよ
りぬらぬらとてふるは家れはよ

後門陽

三

情人名色

くろくめれ那をまきらひりか人御身れくるる縁ぬを
あまののちり
かみひのちり
よのちり
つらちり
まよとちりあまれくるる縁州の名前へ海邊やちりまよ

まよ日 海へ〇まよちり御身のくろく那面てこと
まよを輝立され是と名前のくろく代り縁
他国をくろく御身のまよ

絶石名色

わあひま人のかきくろくまよをいせまよ
海内侍とくろく老人は海内侍のまよ

かきくろく後一白絶くろくまよ
とまよまよかきくろくまよ
車くろく海内侍〇まよまよ人のくろくまよ
神のまよまよと侍くろくまよ
まよとまよまよまよまよ
一向まよまよまよまよ
〇かきくろくまよまよまよまよ
まよくろくまよ

子娘名色

まよまよまよまよまよまよ

寄号々々事

何れもあつてもいふぬは中より男とて世とて是れを
神あり夜の事とていふはゆらゆらとていふは
いふは海女の白洲とていふは唯識論とていふ
花流竹とていふは夜はけいふは

寄号々々事

何れもあつてもいふぬは中より男とて世とて是れを
神あり夜の事とていふはゆらゆらとていふは
いふは海女の白洲とていふは唯識論とていふ
花流竹とていふは夜はけいふは

身とらりてこれ秋乃々言家澄水柳秋冬と
いふ歌とて清く是と官位は是と家澄は
七十以後は二位家澄は振回中御言清澄源澄
仲光澄朝臣は二男中絶ぬとて御代は友位
と事申中絶一と事候とていふ事と新勅
撰の後れ百首とていふは一と歌の事とこれ
と新勅のむくこととていふはとていふは
しとていふはとていふはとていふは
しとていふはとていふはとていふは
いふはとていふはとていふはとていふは

古く二葉の河を

逐日懷舊

天のたれ明れぬおの思ふとちぬじり一ふまうも
てのたれもきしうり創つくりかおとじり
ゆらちちあしうぬじりとうら共んか
わのまどありたのしみか

社頭祝言

祈ねがう神かみもはを福ふくあち君きみはあまの御みまは
せとちちく神かみははくそんらん之義このぎ神かみは
まし日ひらん若わか神かみ明あきらんらんまをさるる

世よはあちく神かみははくそんらん

けり首くびは取と取と一ひと世よはあちく一ひと侍しり道
途みち尻しり殿どのあちちをさるる
とちちあちく一ひと世よはあちく一ひと侍しり道
途みち尻しり殿どのあちちをさるる
出で物ものく可か破やぶ捨す

石百首宗頌字紙一息分わり一國
書以自筆下書字一平又因佳之際而
殿竟宮之より日舒一一月月時は書
し書加れ者之

此書は白子宗長が藏國土一決の次かゝりたか
二歳より人の心かゝり人多くは書加れ者之

宗徳黄門

安元二年^{乙未}十二月^{壬子}経侍從^十宗^一朝廷に付之
此之頁永元二年^{壬子}新勅撰^{壬子}二年^{乙未}宗^一

此一冊小傳宗頌集而大成可
視勉矣加一冊之

孫名野釋判

右上下巻孫名院殿御自判
宗頌の自筆下書墨者也

文祿三年^{甲午}一月^卯月下旬^{乙未}宗^一

兼應元

壬辰

仲冬吉日

